

はV字状のナメ床となる。水の無くなるまでつめてから尾根に上がる。

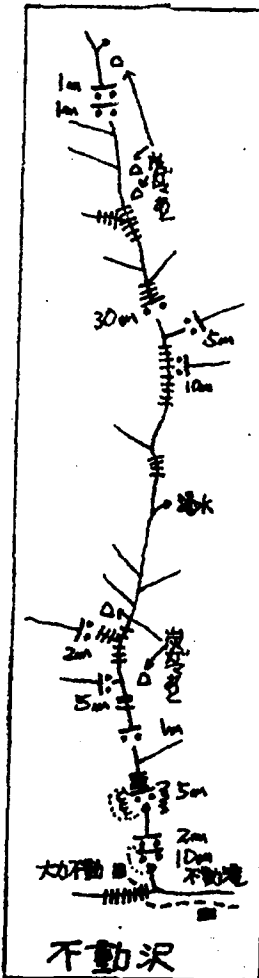
尾根を382.8mピークまで歩いて右俣に下る。尾根上は所々にそれらしき跡が残っている。右俣は最初急なナメ状の下りであるが、そのうちゆるい下りとなってナメもなくなり、平凡なまま左俣との合流点に至る。 (記・ )

【タイム】 中野沢(仮称)出合(10:05)→遡行終了(12:20)→下降開始(13:25)→二俣(13:50)

## 不動沢

1983年5月22日

I



沢登りは今日が初めてという兼子さんを加え、3人で不動沢をめざす。大滝宿の近くに車を置き、林道をたどって大不動尊まで大急ぎで進む。大滝の部落から50分もかかるこんな山奥に宿泊施設までそなえた立派なお堂が建っていた。

8:55遡行開始。最初の不動滝10mは直登できそうにも思えたが、初めてワラジを履く兼子さんのことを考えて右岸を捲く。出だしの雰囲気としては上々。暗い沢筋に迫力ある滝とくれば前途おおいに期待というところである。

続いて5mの滝。私が最初に取り付き右岸を直登したが、ホールドも細かく、後続の2人には高捲きを指示する。あとは一転して平凡な沢となった。

しばらく歩いていると釣り人に会った。「奥の滝まで行くのか。」と聞かれる。「葡萄沢山を越えて栗子トンネルの方へ下るんだ。」と答えたら、目を丸くしていた。でもこの釣り人との遭遇で、奥に大きな滝があることがわかり、勇気を取りもどして歩いてゆく。

10:50本当に滝があるのかと疑い出してきた頃、ようやく滝が出てきた。階段状になって30m程の落差がある。ホールドが豊富で、割合と簡単に乗り越えることができた。ただし、途中で兼子さんがスリップして落下。補助ロープで確保していたので、事なきをえた。

50葡萄沢山の頂上に立つ。

【タイム】 不動滝(8:50)→不動沢終了・葡萄沢山(12:50)

1983年5月22日

### 十三沢(下降)

L ..... 子

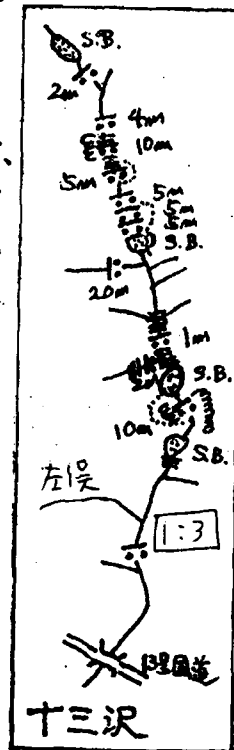
十三沢の下降は、事前に山菜とりの人達から得ていた情報と異なって、滝の連続するなかなかきつい下りであった。

葡萄沢山を13時に出発。10分程で沢に降り立つ。ワラジを履き直して沢を下り始めた。4mの滝が出てきて、これは右岸をクライミングダウン。そしてすぐに10mの滝。これはとても降りられない。ザイルを取り出して、立木を支点に左岸懸垂下降する。右岸には、ビニール袋いっぱいなどたちまちのうちに採れそうなほど、ゼンマイが群生しているのだが、こちらには懸垂の支点がほどよい位置に求められないとあっては、指をくわえて見逃すほかはない。そのはらいせというわけでもないが、ザイルにぶら下がったままで、ウドを集めながら下った。

このあとも5mクラスの滝が連続する。いずれもクライミングダウンするにはちょっときびしい滝ばかりである。ただ幸いなことに、ホールドとなる木の枝があったり、沢からほとんど離れずに捲くことができた。また、所々にスノーブリッジが残っていて、その下をくぐりぬけたりもする。

15:30沢がカーブした所にある10m滝の右岸を捲いて下ると、あとは平凡となった。15:55下降を終え、13号国道にあがる。

(1)



【タイム】 葡萄沢山・下降開始(12:50)→下降終了(15:40)